

【練習問題】

〔4〕 次の文章は『とはすがたり』の一節である。作者二条は、後深草院の寵愛を受け、院の御子を身ごもっていたが、ある夜、院と語らっていたところ、父大納言の危篤を知らせる使いがやってきた。作者はすぐさま実家に帰ったが、しばらくして心配した院が見舞いに訪れる。これを読んで、後の設問に答えなさい。

御車さし寄する音すれば急ぎ出でたるに、北面の下藤げらふ二人、殿上人一人にて、いとやつして入らせ給ひたり。

二十七日の月、ただいま山の端わけ出づる光もすぎきに、吾木香織りたる薄色の御小直衣にて、とりあへず思し召し立ちたるさまも、いとおもだたし。「いまは狩の衣をひきかくるほどの力も侍らねば、みえ奉るまでは思ひより侍らず。かく入りおはしましたると承るなん、いまはこの世の思ひ出でなる」よしを、奏し申さるる程なく、やがてひきあけて入らせ給ふほどに、起き上から《いん》とするもかなはねば、「たださてあれ」とて、枕に御座を敷きてついでさせ給ふより、袖そでのほかまでもる御涙も所せく、「御幼くよりなれ仕うまつりしに、いまはと聞かせおはしましつるもかなしく、いま一度と思し召し立ちつる」など仰せあれば、「かかる X のうれしさも置きどころなきに、この者が心ぐるしさなん思ひやる方なく侍る。母には二葉にておくれに

【出典】

『とはすがたり』

〔重要語句〕

- やつす
- とりあへず
- おもだたし
- みゆ
- 思ひよる
- かく
- よし
- やがて
- さて
- ついある
- 所せし
- かかり（かく＋あり）
- 心ぐるしさ
- やる方なし
- おくる
- ただなり（ただならず）
- あまた
- いはん方なし
- ほど
- 障り
- こまやかなり

しに、我のみと思ひはぐくみ侍りつるに、ただにさへ侍らぬを見おき侍るなん、あまたの憂へにまさりて、悲しさもあはれさもいはん方なく侍る」よし泣く泣く奏せ《ロらるれ》ば、「ほどなき袖を我のみこそ。まことの道の障りなく」などこまやかに仰せありて、「ちと休ませおはしますべし」とて立たせ給ひぬ。

(注) ○北面の下臈——院の御所を警護する武士。

○いまはと聞かせおはしましたる——ここは、院がみずからの行為に尊敬語を用いる自敬表現。後

出の「いま一度と思し召し立ちつる」「ちと休ませおはしますべし」も同じ。

○ほどなき袖を我のみこそ——頼りにならない自分ではあるが、二条を庇護していくつもりだ、ということ。

〔敬語〕

○給ふ

○思し召し立つ

○侍り

○奉る

○おはします

○承る

○奏す

○申す

○仕うまつる

○仰せ

〔古典常識〕

○北面

○下臈

○殿上人

○直衣

○狩(の)衣

○御幸

○まことの道

問一 《イ》《ロ》の助動詞について、次の(1)・(2)の間に答えなさい。

(1) 活用形の組合せとして最も適当なものを、次の中から選び、その番号を答えなさい。

(↓
p.69
参照)

- 1 イは終止形、ロは已然形
- 2 イは終止形、ロは未然形
- 3 イは連体形、ロは已然形
- 4 イは連体形、ロは未然形

--

(2) 本文中における文法的意味として最も適当なものを、次の中から各々選び、その番号を答えなさい。

(↓
p.87
p.88
p.85
参照)

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| イ | 1 | 完了 | 2 | 推量 | 3 | 当然 | 4 | 受身 | 5 | 意志 |
| ロ | 1 | 受身 | 2 | 尊敬 | 3 | 可能 | 4 | 命令 | 5 | 使役 |

イ		ロ	
---	--	---	--

問二 点線部 a・b の動作の主体の組合せとして最も適当なものを、次の中から選び、その番号を答えなさい。

- 1 a は後深草院、b は後深草院
- 2 a は後深草院、b は作者
- 3 a は後深草院、b は作者の父
- 4 a は作者の父、b は後深草院
- 5 a は作者の父、b は作者
- 6 a は作者の父、b は作者の父